

各教育活動の取組	総合的な学習の時間	特別の教科 道徳	学級活動	生徒会活動	学校行事 (RIKUTAI)	学校行事 (合唱コンクール・展示発表会)	食育 (栄養教諭を活用した指導)
主体性を高めるための重点取組	自らテーマや問いを設定し、深く探究する学習活動を目指す。	ねらいに応じた発問設定を工夫し、対話を通して自己の考えを深める活動に重点を置く。	役割分担や問題意識の共有・解決に向けた意見交換等、自主的に行い、積極的に参加する工夫を行う。	自分の役割を見付け、互いを助け合いながら生徒会活動を進める。	生徒主体で RIKUTAI を企画、運営する。	相手の発表や作品をしっかりと鑑賞し自他を尊重し認め合う。	・感謝の心、食べ物を大切に育てる生徒を育成する。 ・丈夫な体をもつ生徒を育成する。
主体性が高まったと考えられる育てたい生徒の姿	・主体的に逆算をして行動できるようになる。	・自他を尊重することができる (自分のことも他の人のことも認められる)。 ・自分の考えを一步立ち止まって考える。	・積極的に取り組み、他人の気持ちを理解できる。 ・友達の活躍や良いところを喜び、称えられる。	・生徒主体で行事を運営する。 ・生徒が自主的に意見を出し合う。 ・自分で考えて役割に取り組めるようになる。	※教員のワークショップでは、実践のふりかえりのみ実施した。	・クラスみんなで歌を作り上げることで、達成感や満足感を得る。 ・他者の作品や努力を尊重し、認め合う姿勢を身に付ける。	・残さず食べようという姿勢を身に付ける。 ・食に触れる機会を増やす。 ・作っている人の顔と気持ちをを知る。
教員の指導と手だて	・自由度が広がることと主体性を発揮することが関連している。 ・活動テーマに沿って、何が必要かを自分たちで考える。	・道徳授業地区公開講座では、事前に学年会を設定し、多様な意見が出るような発問について検討する。	・教員から積極的に生徒の役割を意識付ける指導をする。 ・生徒が他の人の良い行いを見付ける習慣を身に付けさせる。	・教員はできるだけ説明しないで、生徒に任せる。 ・枠組みは教員がつくり、その活動内容に関しては生徒自身に考えさせて取り組ませる。		・心を込めた作品に触れ、互いに学び合う心を育て、更なる向上心をもつ。 ・全員が発表できる場を活かし、認め合う意識を高める。	・担任の先生から「苦手なものも一口は食べよう」という声掛けを徹底する。 ・委員会活動で食の大切さや体づくりについて考えさせる。
具体的な教育活動	・キャリア教育において、調べる・話を聞く (第1学年)、体験する (第2学年)、選択する (第3学年)、活動を推進する。	・学年の教員が順番に各クラスで授業を行う。 ・道徳ゲストティーチャーを活用し、多様な価値観に触れる機会を設ける。	・行事の際に一人一役の活動を設定する。 ・日誌に良かった人を書いて発表する。	・できる限り専門委員・実行委員・係生徒に説明させたり、指示を出させたりする。 ・生徒中心の活動を多く取り入れ経験を積ませる。		・歌詞に自分の想いをのせて歌うことができるよう、生徒主体で歌詞カードを作る。 ・鑑賞カードを書き作品に対して感じたことを言語化する。	・生徒が野菜を育てることで、野菜を食べることにつながるようにする。 ・役割を果たすと「おかわり券」がもらえるようにする。
実践を通して見られた生徒の姿	・相手の話を傾聴し、受け取ることができた。 ・グループごとに自分が体験して考えたことを発表することができた。 ・事後学習では、お互いに相談しながら役割を分担し、取り組むことができた。	・意見が活発に出たことが、他の人の考えについて深く理解することにつながった。 ・話し合い活動 (4人組) で活発に意見を交わすことができた。	・一人一役あることで、担当の生徒がいなかった際に役割をカバーする様子が見られた。 ・気付いた生徒が主体的に行動する生徒が増えた。 ・生徒同士で応援する様子が見られた。	・各専門委員長が、自ら考え主体的に委員会を運営しようとする姿が見られた。 ・生徒会活動に必要な準備を自分達で考え、教員に相談し活動することができていた。		・受け身ではなく、声を掛け合っていて、合唱練習に取り組んでいた。 ・上級生になるにつれてリーダーが機能し、主体的な様子が目立った。	・牛乳を飲まない生徒も根気強く指導すると、飲むようになった。牧場にも行って、その話もした。 ・苦手なものも一口は食べる姿がより多く見られた。
主体性を育むのに特に有効であった教育活動	・漠然としている内容が次第に焦点化していく中で、周りとの関わりやコミュニケーションの必要性を学ぶ様子が見られた。	・ワークシートを工夫し、理由を書かせるようにした。 ・ロイロノートなどを活用して発問することで、他の人の意見を共有できるようにした。	・土台づくりを第1学年から作っていくことで、上級学年になるにつれて役割の大切さに気付く生徒が増えた。	・事前に担当の教員と、委員会の内容を打ち合わせることで、委員長を中心に委員会を進めることができた。 ・生徒が自分たちで役割分担を決めることで、責任感をもって取り組んでいた。	・実行委員・上級生を中心とした活動により、主体性が高まり、実行委員が中心となってクラス練習や体育の授業に取り組むことができた。 ・競技の勝ち負けよりも、役割分担にエネルギーをかける。	・実行委員を中心とした活動や、事前指導により、生徒主体の運営をすることができた。	・畑で作物を作る活動により、食べ物を育てる苦勞を、経験を通して学ぶことができた。
今後の教育活動に生かすこと	・体験型の学習を取り入れる。 ・生徒の経験値が少ないものに取り組ませることで、興味・関心を引き上げる。	・次のステップとして他の人の意見について質問することができるようになりたい。	・生徒同士で良かった点を共有できる場面を作っていく必要がある。	・専門委員長以外の生徒にも、生徒が運営していくという意識・行動を普及させていく。	・リーダーとして全体の前に立つ責任感や経験を多くの生徒にさせる。 ・生徒が主体性を発揮できる場を効果的に設定する。	・教員により、活動の意義や方法を共有する。 ・リハーサルや他学年の練習の見学を継続する。	・生徒が献立を作る、野菜を作る活動を充実させる。 ・情報発信と経験による学びが次の活動の意欲につながることを教員も意識をする。

各教育活動の取組

総合的な学習の時間
【重点取組】 自らテーマや問いを設定し、深く探求する学習活動を目指す。
[育てたい生徒の姿]
・逆算をして行動できるようになる(逆算のところに主体性が入る)。 →「勉強しなさい」というやらされている学びから「自ら」「必要なことを」「将来のために」学んでいくようになる。 →自らの行動に意味付けをしていく。 →理想は「ゴールを設定できる」こと。でも、それができなくても自分が好きなことを追究できる。
[教員の指導と手立て]
・主体的→自由度が広がる→主体的… 自由度が広がると通常は、何をやっていいのかがわからなくなるが今まで学習してきたことを基に考えていく。 ・知識+体験 体験をする前に調べることによって、より楽しい身になる体験になるということを積み重ねていくことにより、調べる内容も変わってくる。(より深く・広く) ・例えば「校外学習に行く」 そのために、「テーマ 楽しむ」 そのために、何が必要か。自分たちで考えることをするというのもいいかもしれない。 修学旅行(宿泊学習・班活動)において、宿泊学習は第1学年、班行動は第2学年で力をつける。3年間のスパンで考える。
[具体的な教育活動]
・修学旅行や校外学習において <通常の学級・S組> 第1学年 自分を見つめる。自分自身を知る。自分と向き合う。めんどくさがらずに続ける。 第2学年 校外学習の体験先を条件付きで調べ、プレゼンする。 第3学年 見学地について調べてまとめる。コース決めにも生きている。 <G組> 修学旅行や校外学習において、自らのテーマを設定し、調べる。調べたことをプレゼンする。実際に体験する。 ・キャリア教育において 第1学年は、調べる・話を聞く(何を考えたらいいいのかの土台作り) 第2学年は、体験する(職場体験) 第3学年は、選択する(調べて、体験して、その結果どのような道に進むのか)
[実践を通して見られた生徒の姿]
・小グループだが、自分で調べたことを話すことができた。また、相手の話を傾聴し、受け取ることができるようになってきた。(第1学年) ・職場体験発表会では、保護者の前でグループごとに自分が体験してきたことを発表することができた。(第2学年) ・修学旅行では、自分で調べたことをまとめることができた。事後学習では、お互いに相談しながら分担し、取り組むことができた。(第3学年)

<ul style="list-style-type: none"> ・進路に向けて、自己PRカードを全員書かせることで、自分の将来に向け考える機会となった。(第3学年)
[主体性を育むことに特に有効であった教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル・コミュニケーションや福祉体験→普段関わる機会が少ないことを学ぶことで相談するきっかけになる。 ・職場体験→修学旅行事前事後学習→進路学習という流れで、1年生からの積み上げ。 →漠然としている内容からだんだん焦点化していく中で、周りとの関わりやコミュニケーションの必要性を学んでいる。
[今後の教育活動に活かすこと]
<ul style="list-style-type: none"> ・体験型の学習を取り入れること。 ・生徒の経験値が少ないもの(本物)に取り組ませることで、興味関心を引き上げさせる。 ・外部の人材を取り入れる機会を増やす。→どこから調べるのかなどハードルは高いが。

<p>道徳</p>
[重点取組] ねらいに応じた発問設定を工夫し、対話して深める時間に重点を置く。
[育てたい生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・自己尊重ができる生徒(自分のことも他の人のことも認められる生徒) ・自分の考えを一步立ち止まって考える。
[教員の指導と手立て]
・道徳地区公開講座では、事前に学年会を設定し、多様な意見が出るような発問について検討する。
[具体的な教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション道徳や、ゲストティーチャー(多様な価値観に触れる) ・グループ活動 ・他者の意見を受け入れる、自分の意見も主張する。(記名で意見 ロイロノート) ・言葉やスライドなどを用いて、表現・伝える方法を工夫する。
[実践を通して見られた生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・意見が活発に出た。他の人の考えについて深く理解することにつながった。 ・話し合い活動(4人組)で男女関わらず、活発に意見を交わしていた(保護者アンケートにあり)。 ・話し合いの雰囲気も良かった。 ・ロイロノートで色・絵文字など工夫して表現する生徒もいた。 ・ただし、言葉で伝える力を高めることには課題がある。
[主体性を育むことに特に有効であった教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルの道徳教材で活用する。 ・ワークシートに工夫や理由などを書かせる。 ・ロイロノートなどを活用しての発問する。
[今後の教育活動に活かすこと]
・意見を交わすことが(話し合い活動)自然にできてきたので、次のステップとして他の人の意見について考えることができる良い。そうすることで、さらに考えが深まるのではないか。

学級活動
【重点取組】 役割分担や問題意識の共有・解決に向けた意見交換等、自主的に行い、積極的に参加する工夫を行う。
[育てたい生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・責任をもって自分の役割に責任をもつ。(一人一役) ・ボランティアマインドがある。 ・積極的に取り組み、他人の気持ちを理解できる。 ・友達の活躍や良いところを喜び、称えられる。 ・自分の役割を最後まで全うできる。(自分の適性に合った) ・一人一役を通して、積極的に行動できる習慣を身に付ける。
[教員の指導と手立て]
<ul style="list-style-type: none"> ・やるべき事の土台作りからスタート 教員側が役割を自覚させる。 ・生徒が他の人の良い行いを見付ける習慣を身に付けさせる。
[具体的な教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一役を実践する。 ・日誌に良かった人を書いて発表する。
[実践を通して見られた生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一役あることで、担当の子がいなかった際に役割をカバーする様子が見られた。 ・気付いた生徒が主体的に行動する生徒が増えた。 ・生徒同士で応援する様子が見られた。 ・学級日誌で「よかった出来事」についての記載が多かった。
[主体性を育むことに特に有効であった教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・土台づくりを一年生から作っていくことで、2年、3年になるにつれて役割の大切さに気付く生徒が増えた。
[今後の教育活動に活かすこと]
<ul style="list-style-type: none"> ・良い行いを見付けられているが、全体にアウトプットする機会が少なかったことから、授業者や教員が生徒同士の良かった点を共有できる場面を設定する。

生徒会活動
【重点取組】 自分の役割を見付け、互いを助け合いながら生徒会活動を進める。
[育てたい生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体で行事を運営する。 ・生徒が自主的に意見を出し合う。 ・自分で考えて役割に取り組めるようになる。 ・教員が指示を出さなくても、生徒が自分たちで指示・行動できる。
[教員の指導と手立て]
<ul style="list-style-type: none"> ・教員はできるだけ説明しないで、生徒に任せる。 ・担当の枠は教員が作り、その活動内容に関しては生徒自身に考えさせて取り組ませる。 ・活動例を生徒に示す。全校アンケートの提案する。
[具体的な教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・できるかぎり専門委員・実行委員・係生徒に説明させたり、指示を出させたりする。(場面・機会を多く設定する。) ・生徒中心の活動を多く取り入れ、経験を積ませる。 ・中央委員会で、各行事や取り組みについて情報共有を十分に行う。その委員会だけで完結するのではなく、他のグループにも役割を与えたり、意見を求めたりする。 ・役割分担。仕事が早く終わったら作業の滞っている人の支援をする。
[実践を通して見られた生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・各専門委員長が、主体的に委員会を運営しようとする姿が見られた。 ・生徒会活動に必要な準備を自分達で考え、先生に相談し活動することができていた。 ・委員会活動で、新委員長が旧委員長の動きをまねして自主的に動いていた。 ・各委員会で、委員長を中心に生徒主体で進めることができていた。 ・委員会の打ち合わせを委員長が担当の教員としていた。 ・取り組み方がわかると生徒自身で活動できるようになった。 ・主体的に取り組めるのは特定の生徒だった。 ・委員会において、責任をもって自分の役割を務めていた。 ・気になることややってみたいことを提案していた。 ・下級生に上級生がやり方を伝えていた。
[主体性を育むことに特に有効であった教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・行事の準備、行事当日の司会進行、〇〇だよりの作成、などを行う。 ・行事の実行委員が先頭に立ってクラスを引っ張ること。 ・3役で行う仕事でも必ず下級生も一緒に取り組ませたこと。 ・専門委員会するとき、事前に委員長が各委員会の担当の先生と、委員会の内容を打ち合わせることで、委員長を中心に委員会を進めることができた。 ・生徒会本部では、各行事の準備のとき、生徒が自分たちで役割分担を決めることで、責任感をもって取り組んでいた。

<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し取り組む。 ・自ら考えて取り組む活動は難しかった。 ・ボール管理をする中で、他学年との交流があり、その中で気軽に相談できる雰囲気生まれた。
[今後の教育活動に活かすこと]
<ul style="list-style-type: none"> ・専門委員長以外の生徒にも、生徒が運営していくという意識・行動を普及させていくこと。 ・打ち合わせの内容を教員同士でも共有すること。ただし、教員が指示するのか、生徒に考えさせるのかが課題である。 ・最上級生が見本として活動していたことを引き継ぎ、同じように活動できるように支援すること。 ・1年生の書記の生徒以外にも、複数人の下級生に仕事を覚えさせる。 ・クラスの委員会や係、班の担当など、生徒が、それぞれがもつ役割において活躍できる場面を設ける。 ・生徒たちで考える時間や機会を増やす。 ・行事以外でも生徒が発表や発言をできる機会を増やす。 ・事前に教員が見通しをもって計画を立てる。 ・なるべく多く他学年と交流できる機会を増やす。委員会の中でも学年の枠を越えられるようにする。 ・アンケートを実施し、生徒主体で取り組める内容や提案を確認する。 ・生徒主体でできるように教員が情報共有をしておく。流れや良い伝統を引き継げるようにする。

学校行事 (RIKUTAI)
<p>【重点取組】 生徒主体で RIKUTAI を企画、運営する。</p> <p>※1学期の取組のため、教員のワークショップでは、実践のふりかえりのみ実施した。</p>
[実践を通して見られた生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の担当を責任もってしっかりやり切っていた。 ・(下級生が)「来年は自分たちがやるぞ、先輩たちよりもよい RIKUTAI にするぞ」という意欲(意図的な異学年交流)がわいていた。 ・クラス旗の作成や、リレーの走順を変えなくてはいけない場面で、自分の役割を見付け出していた。
[主体性を育むことに特に有効であった教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員・上級生を中心として活動した。 ・実行委員が中心となってクラス練習や体育の授業に取り組んだ。 ・係活動や吹奏楽の演奏が有効だった。 ・競技の勝ち負けよりも、役割分担にエネルギーを注いだ。
[今後の教育活動に活かすこと]
<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとして全体の前に立つ責任感や経験 <p>⇒まとめる・話す、などの活動が自信につながる。</p> <p>⇒それぞれの場面で小さなリーダーとして活躍できる。(部活動では、上級生として活躍できるなど、教室とはまた別の場面がある)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体性を発揮できる場 <p>学級委員での活動や、校外学習(プレゼン大会)、各授業での発表、修学旅行(班活動)などの、機会を設ける。</p>

学校行事(合唱コンクール・展示発表会)
【重点取組】相手の発表や作品をしっかりと鑑賞し自他を尊重し認め合う。
[育てたい生徒の姿]
<p><合唱コンクール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に指揮者・伴奏者・パートリーダーなど立候補する。 ・自分のパートに自信をもって歌えるようになる。 ・クラスみんなで歌を作り上げることで達成感や満足感を感じられる。 ・他クラスや他学年の歌唱に対して好ましい姿勢をとれる。 <p><校内作品展示発表会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の作品や努力を尊重し、認め合う。 ・自らの得意分野に自信をもって取り組む。 ・普段は触れ合えない他クラスや他学年の作品に触れ合う。
[教員の指導と手立て]
<ul style="list-style-type: none"> ・心を込めた作品に触れ、互いに学び合う心を育てる。 ・自分の学びが形として残り、見てもらえる経験を積ませる。 ・評価だけではない全員が発表できる場を設ける。→ 学校の一員として認め合う。 ・多様な価値観の再発見の場を設ける。
[具体的な教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞に自分の想いをのせて歌う。 ・みんなで歌詞カードを作る。 ・指揮者・伴奏者・パートリーダーがクラスで意見を言う。 ・プロの合唱、雰囲気を楽しむ。 ・各自の係を遂行し、一つの目標に向かってクラスが協力し合い、達成感をもつ。 ・鑑賞カードを書き作品に対して感じたことを言語化する。 ・作品ガイド係を作る。
[実践を通して見られた生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーに言われるだけでなく、声を掛け合って、合唱に取り組んでいた。 ・楽しかったという声が聞かれた。 ・男子が特に元気に声を出していた。 ・上級生になるにつれてリーダーが機能し、主体的な様子が目立った。 ・実行委員が前向きだった。 ・クラスにより差も見られた。
[主体性を育むことに特に有効であった教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の運営、指示が的確。
[今後の教育活動に活かすこと]
<ul style="list-style-type: none"> ・教員により生徒の活動の枠組みをつくる。 ・リハーサルや他学年の練習の見学を継続する。

食育
【重点取組】・感謝の心、食べ物を大切にする生徒を育成する。・丈夫な体をもつ生徒を育成する。
[育てたい生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年 どのクラスも同じ給食指導を行うことで、残さず食べようという姿勢でいる。 ・第2学年 食に興味をもっている。(食に興味をもっていない生徒は平気で残す。)食に触れる機会を増やす。 ・第3学年 好き嫌いなく、偏食しない。 ・G組 感覚過敏を抜きにして、作っている人の顔と気持ちを知ることによって食べることができるようになっている。 ・S組 食に関する様々な情報にふれ、つくる楽しさ、味わう楽しさを知ろうとする。
[教員の指導と手立て]
<ul style="list-style-type: none"> ・担任からの声掛けにより、一口は苦手なものも食べようとするを徹底する。 ・保護者への呼びかけにより、給食だよりや学年だより、学校だよりでの声掛けを学期に一度は行う。 ・委員会の生徒を活用する方法を検討する。 ・上級生が下級生の手本になる取組を行う。
[具体的な教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を育てることで、食べることにつながるようにする。 ・やることをしっかりやると「おかわり券」をもらえるようにする。
[実践を通して見られた生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・よく食べる。 ・牛乳を飲まない生徒も根気強く指導したら、飲むようになった。牧場にも行って、その話もした。 ・一口は食べる姿。 ・食べる生徒は食べるけど、食べない生徒は食べない。 ・和食より洋食の方が人気ある。
[主体性を育むことに特に有効であった教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・情に訴える。 ・継続して続ける。 ・やることをしっかりとやらなかったらおかわりできない制度。 ・畑で作物を作る活動。食べ物を食べられる苦労等を知ることにつながっていた。 ・回覧形式で食育の掲示物の実施。しっかりと見る生徒が多かった。
[今後の教育活動に活かすこと]
<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がっても、一口は食べる等の指導を継続的に同じように指導をしていけるといい。(最初の手立てはやってあげるけど、そのあとは、自分たちでどうやったらいいかを考える) ・献立を作る、野菜を作るといった活動を取り入れる。 ・情報発信と経験(知る)をすること。生徒の次の活動につなげてあげる。 ・ランチタイムズを聞き、クイズにしっかりと答えさせる。